

JAひまわり管内のアスパラガスに対する「ネバリン」展示圃結果報告書

日本肥糧株式会社

1. 試験目的： アスパラガス栽培におけるネバリン施用が収量に及ぼす効果の確認。
2. 試験場所： 愛知県豊川市
3. 生産者名： H様
4. JA担当者： M様、S様
5. 栽培概要
(1) 供試作物：アスパラガス（品種：ウェルカム、株年数5年目）
(2) 収穫日：2022年3月7日～
(3) 資材施用：4連棟ハウスの中央2棟を試験区と慣行区に分けて試験。畝数：各区3畝(畝長25m)
試験区のみネバリン100kg/10a相当を2回施用（1回目：10/5、2回目：1/13）。
6. 結果：
達観による経過観察と各区の収量調査を実施した。結果は次に示した。

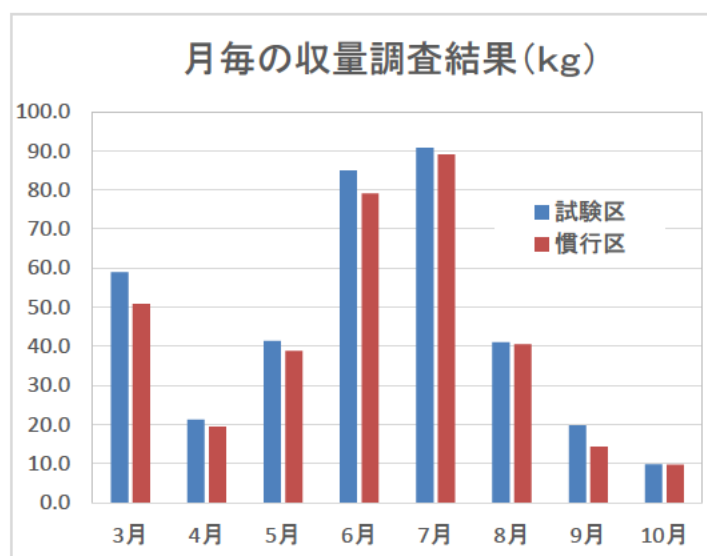


図1. 月毎の収量調査結果

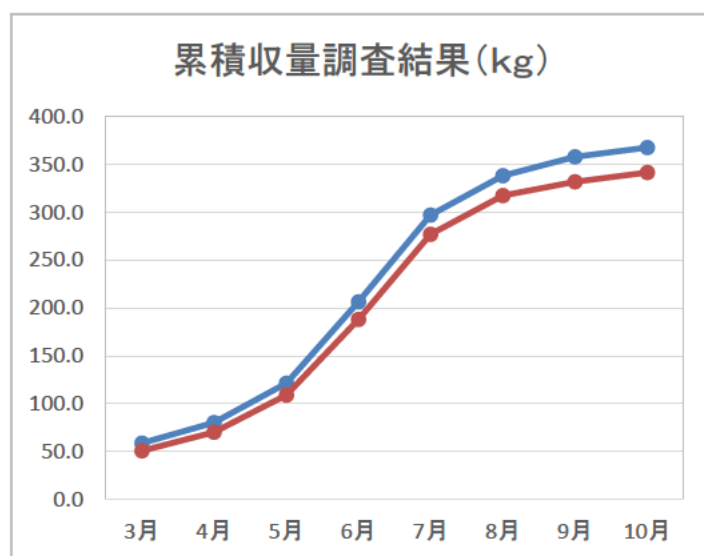


図2. 累積収量調査結果

表1. 収量調査結果 各区3畝の合計収量 (kg)

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	合計
試験区	58.9	21.2	41.3	84.9	90.8	41.0	19.7	9.8	367.7
慣行区	50.9	19.4	38.8	79.0	89.0	40.6	14.3	9.8	341.6
指数	1.16	1.10	1.07	1.07	1.02	1.01	1.38	1.01	1.08
収量差(試-慣)	8.1	1.8	2.5	5.9	1.8	0.5	5.4	0.1	26.0

両区共に3月7日から収穫が始まった。試験区は慣行区と比べ、初期から若茎の伸長が良好で、収穫本数が多く、3月単月で8.1kg（32kg/10a相当）の増収となった（表1、写真2）。

4月に入って立茎の関係で収穫を調整したため、収量は抑えられたが、生育期全体において試験区は慣行区よりも生育状況が良好で、収穫終了の10月末までで合計26kg（104kg/10a相当）の増収となった。生産者から、収穫期において試験区は慣行区よりも明らかに収穫本数が多い日もあり、収量が増えた」と感想を頂いた。また、試験区は樹勢も良く、全体を通して状況が良かったとの事だった。

これは、ネバリンの持つ水溶化腐植の効果により、根の発根促進やキレート効果による養分吸収量が高まったことで、作物が健全に生育し、地上部の生育向上や収量の増加に繋がったと考えられる。

なお、この試験においてはアスパラガスの販売金額から資材代を差し引きしても十分な費用対効果が得られる結果となった。そのため、アスパラガスへの「ネバリン」の施用は有効だと考える。



写真1. 生育時の圃場の様子（2021年10月20日）



写真2. 生育時の圃場の様子（2022年3月16日）



写真3. 生育時の圃場の様子（2022年4月21日）

以上